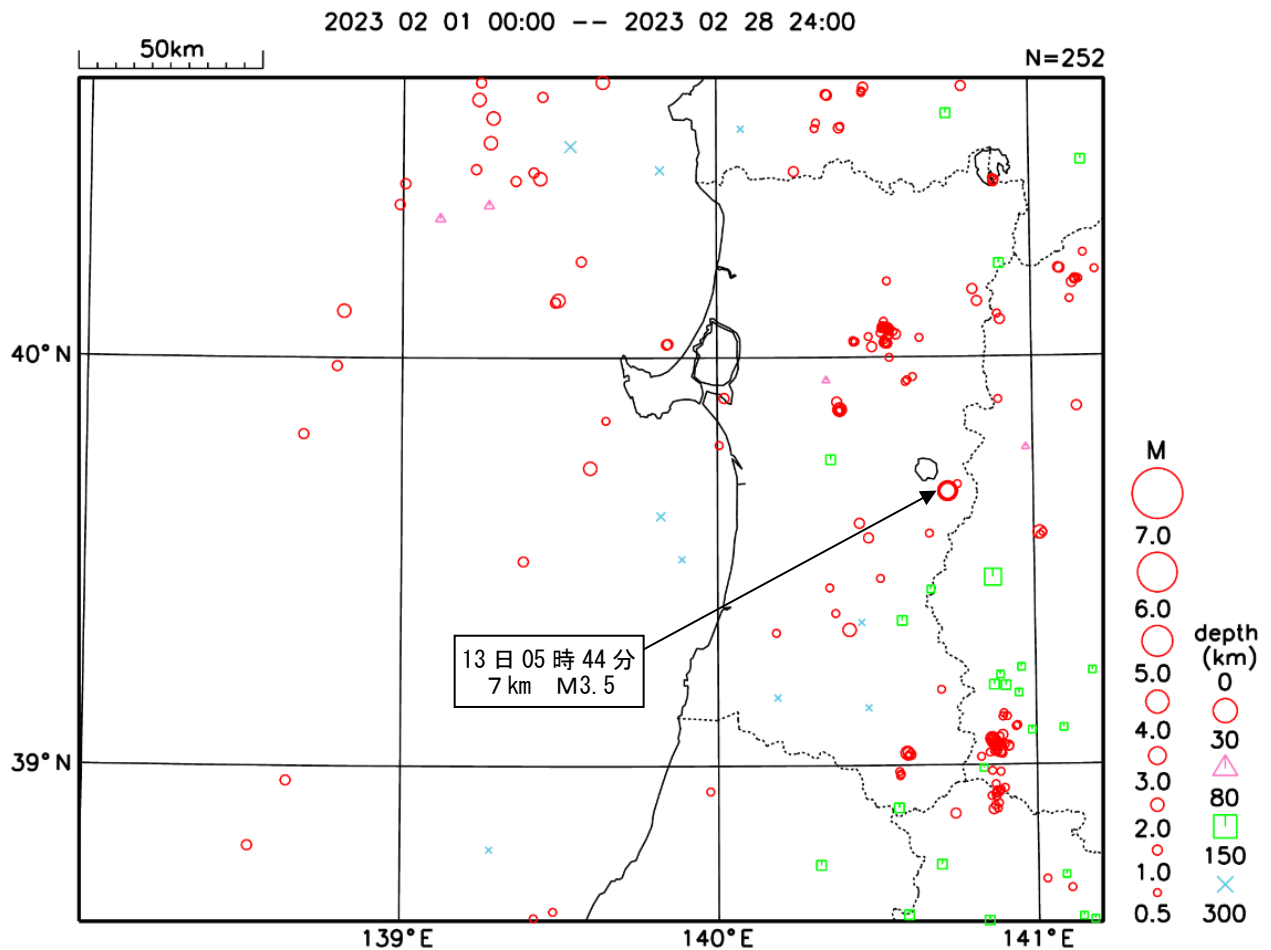


秋田県月間地震概況

秋田地方気象台

2023年2月

【震央分布図】



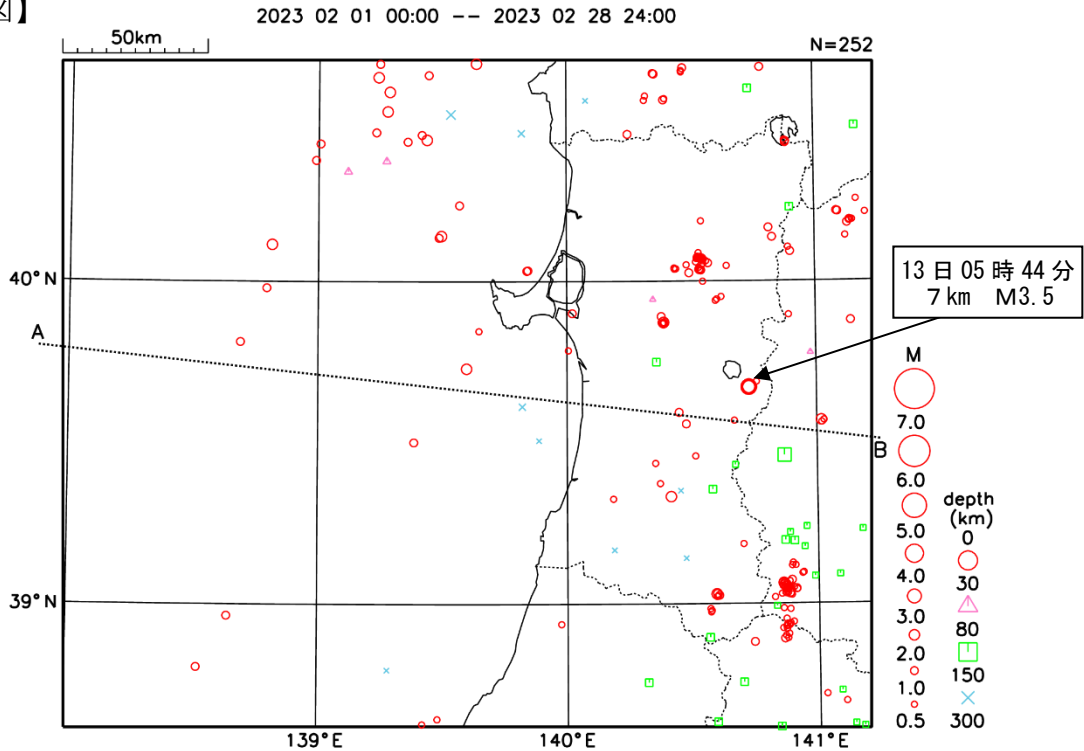
〈2月の地震概況〉

この期間、秋田県とその周辺を震源とする地震は252回発生した。県内で震度1以上を観測した地震は2回（1月：3回）で、そのうち図の範囲内を震源とする地震が1回、図の範囲外を震源とする地震は1回であった。

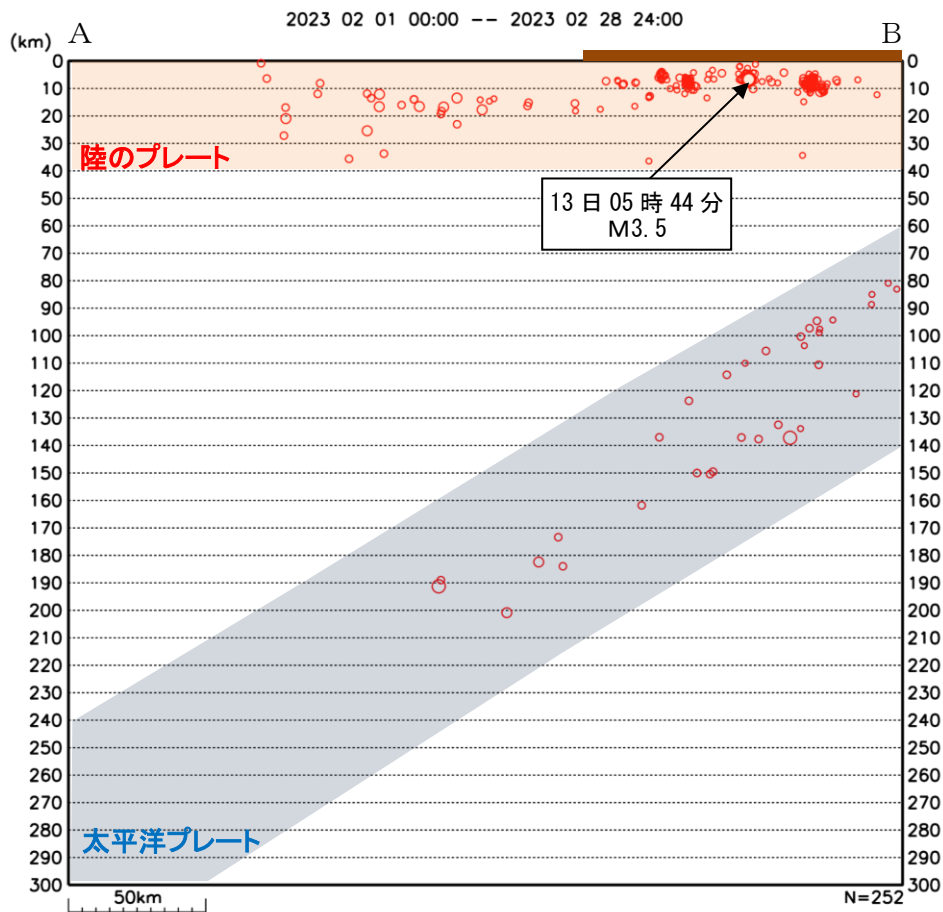
13日05時44分に秋田県内陸南部の深さ7 kmでM3.5の地震が発生し、秋田県と岩手県で震度2～1を観測した。県内では、仙北市で震度2、大仙市で震度1を観測した。この地震は地殻内で発生した。

25日22時27分に釧路沖の深さ63 kmでM6.0の地震が発生し、北海道で震度5弱を観測したほか、東北地方と関東地方で震度3～1を観測した。県内では、鹿角市、横手市、大仙市で震度1を観測した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。

【震央分布図】



【断面図】 (震央分布図内の直線A-Bを断面として投影した震源の深さの分布)



- ※ 太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。
- ※ —— は陸地の大まかな位置を示している。
- ※ 陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。
 なお、海域地殻内の地震の震源（日本海の浅い地震など）は、実際にはより浅いものが多いと考えられる。

秋田県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2023年2月1日～2023年2月28日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2023年02月13日05時44分	秋田県内陸南部	39° 40.2' N	140° 43.7' E	7km	M3.5
秋田県	震度 2 : 仙北市西木町上桧木内* 仙北市田沢湖生保内上清水* 仙北市田沢湖田沢*				
	震度 1 : 大仙市北長野* 仙北市角館町小勝田*				
2023年02月25日22時27分	釧路沖	42° 45.3' N	145° 04.5' E	63km	M6.0
秋田県	震度 1 : 鹿角市花輪* 横手市大雄* 大仙市高梨*				

(注) 地震の震源要素等は暫定値であり、再調査により変更することがある。

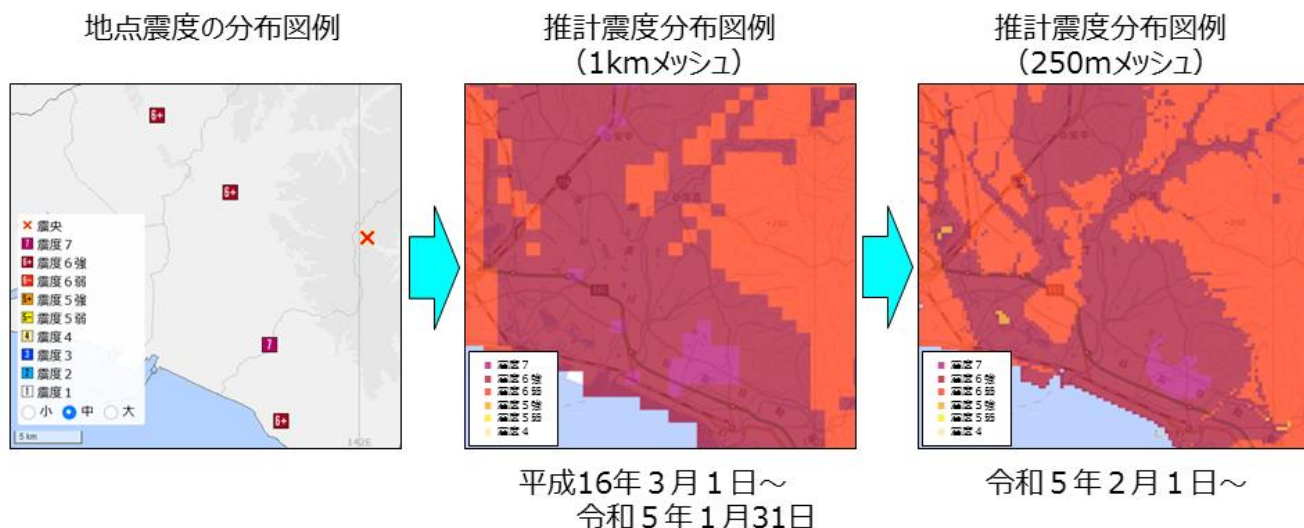
各地の震度は秋田県のみを示し、*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

推計震度分布図の 高解像度化・高精度化

防災メモ

震度5弱以上の地震が発生した場合に、気象庁では、震度観測点のない地域を含む震度分布を面的に推計し、推計震度分布図として提供していますが、令和5年2月1日より、従来よりも高解像度化・高精度化した推計震度分布図の提供を開始しました。



具体的には、使用する地盤情報を「1km メッシュ」から「250mメッシュ」に変更して高解像度化するほか、緊急地震速報の震度予測技術を用いることにより、停電等で震度データが入手できない観測点があった場合も高い精度の推計震度分布図に改善しています。

より詳細に揺れの強かった地域を把握できるようになりましたので、地震発生直後の適切な救援ルート・避難場所の選定や、応急対応優先箇所の判別等にご利用ください。

○推計震度分布図の確認方法

地震発生後速やか(15分後目途)に、推計震度分布図を地方公共団体等関係防災機関に提供するとともに、以下の気象庁ホームページにも掲載します。

https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map

(補足)推計震度分布図とは？

地震発生後の防災初動対応への活用を目的とした、「点」のデータである各地の震度の観測結果から地盤の揺れやすさ等を考慮して震度を「面的な」分布として推計した図情報です。原則として最大震度5弱以上を観測した場合に発表し、推計震度4以上の範囲を示します。

図の活用として、個々のメッシュの位置や値ではなく、震度の大きな地域の面的な拡がり具合やその形状に着目していただくことが重要です。場合により、推計された震度と実際の震度が1階級程度ずれることがあります。

【参考資料】推計震度分布図について(気象庁ホームページ)

<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/suikai/kaisetsu.html>